



# ホールブレインチームビルディング

全能思考で、最強のチームを作る7つのメソッド

## なぜ御社のチームワークが上手く機能しないのか？

今まで、様々なチームビルディングのメソッドをお試しになった経営者の方へ  
このお話は、大変重要な情報になると思います。

それらのメソッドに、大きな間違いがあるわけではありません。

そもそも、チーム編成や、各人の特性や、プロジェクトの特性を把握せずに  
メソッドのみを導入しても、機能しないのは当たり前なのです。

ベースが0なのに、幾ら優秀なメソッドを掛け算しても、結局は0です。

まず脳科学や心理学的な観点で、それらをプロファイリングするべきなのです。

## 高いパフォーマンスを発揮するチームの特性とは？

- 異質な思考スタイルの個人で構成
- “ホモ” (同質) ではなく“ヘテロ” (異質) なチーム
- 各人が得意技を発揮
- クリエイティブプロセスを活用する能力
- メンバー同士のコミュニケーション、相互作用に関する高いスキル
- チームの目的についてメンバーが視覚的な共通
- ビジョンを持つ (チームミッションのプロフィールを明確化)
- チームの目的に合ったリーダー
- チームパフォーマンスに対する適正な評価と報酬

## この条件を満たす為にすべきこと その1

「異質な思考スタイルの個人で構成」

この為には、まずハーマンモデルの脳優勢度調査を行い、チーム全員の脳の特徴を把握することです。

これらの優勢度により、話す言葉、理解しやすい説明、得意な分野など様々な特徴を浮き彫りにする事が可能です。

これを把握した上で、適材適所に人員を配置する事により、チーム構成の第一歩が踏み出せます。

## この条件を満たす為にすべきこと その2

「“ホモ” (同質) ではなく“ヘテロ” (異質) なチーム」

脳優勢度調査の結果を見て、チーム内の人員が特定の優勢度に偏りが無いかを確認して、編成の入れ替えなどを検討するべきです。

特性の偏りは、すなわちアイデアの枯渇に繋がり、クリエイティブな思考の妨げとなる恐れがあることを、理解しなくてははいけません。

もちろんプロジェクト自体の特性を踏まえた上で、編成を考えなくてはいけないことは言うまでもありません。

## この条件を満たす為にすべきこと その3

「各人が得意技を発揮する環境」

脳優勢度は、そのまま得意分野を浮き彫りにします。

A優勢＝コストなどの推定、分析に長け問題解決の糸口を見つける。

B優勢＝計画、組織を形成して実行に移す事に長ける。

C優勢＝人とのコミュニケーションに長けており、計画の進捗を促進する。

D優勢＝ビジョンやコンセプト作りに長け、戦略を立てる事に長ける。

## この条件を満たす為にすべきこと その4

「クリエイティブプロセスを活用する能力」

前頁の特性を踏まえて、プロジェクトの進行にあたり各人の役割を明確化  
D優勢の人間は、発案や創始を担い、A優勢の人間にコスト分析を委ねる。  
その上で、C優勢の人間を交えて検討を繰り返し、最終的な方針を決定し  
B優勢の人間に、包括的な計画や組織編成を委ねる役割を与える。

D→A→C→B→全員での最終決定と言うプロセスを踏むことで、全能を使い、プロジェクトの全容を把握検討し、間違いの無いプランを作りそれを実行する事で、成功率が格段に上昇します。

この条件を満たす為にすべきこと その3



# 研修/トレーニング

- チーム育成に必要な研修/トレーニングをここに挙げる

# ベスト プラクティス

- ベスト プラクティスについての討議内容をここに挙げる

# 推奨事項

- 推奨する戦略をいくつか示す
- 次に行うべきことを提案する
- 活動項目を挙げる